

和歌山商業高等学校

実施日時	令和元年 11月 1日（金）
参加者	生徒880名、教職員50名、 計930名
実施内容	避難訓練、家具固定法、AED 講習、応急手当訓練 等

ねらい

- 1、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させ、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

- 1、避難訓練（全学年）
- 2、家具固定法（3学年）
- 3、防災講演会（全学年）



概要

- 1、避難訓練 南海トラフ巨大地震に備え、集合場所への迅速な行動、点呼・確認方法の訓練を行う。震度5強から6弱の地震の激しい揺れに対し、校舎は倒壊しなかったが、教室や廊下の窓ガラスが割れ、天井や照明器具が落下。火災は起きておらず津波警報が発令されている想定で避難訓練を実施。
- 2、家具固定法 地震での負傷原因の一番は家具の転倒・落下である。家庭ではどんな場所が危険か把握し、様々な家具の固定方法について知る。
- 3、梧陵の心伝えます～防災の原点がここにある～と題して、元いなむらの火の館館長・現濱口梧陵語り部ボランティアである熊野亨先生に講演をいただいた。

参加者感想文

- ・AED 講習に参加し、AED の使い方を知ったこと、また心肺蘇生法を行うときの力加減を感じることができ、もし身近な人が倒れたときには、すぐに助けられる適切な処置方法を身に付けられたことは、自分自身にとってとてもためになった。
- ・防災スクールに参加して、実際に災害が起こった時には、このような訓練では済まないだろうと感じ、防災意識を高める良い機会となった。また避難所作りを行ったことで、災害時に、私たちが率先して防災リーダーとしての役割を果たすことができると考えた。

成果と課題

【成果】昨年度同様、避難訓練時に避難経路を工夫した結果、混雑緩和に繋がりスムーズに避難することができた。学年別の取り組みである「応急手当」「AED 講習」「家具固定法・避難所作り」「防災講演会」はどれも有意義であり、参加者の感想にあるよう良い成果が得られた。防災講演では、「梧陵の心伝えます～防災の原点がここにある～」の話を聞き、今までの学校で学んだことは自分の命を守ることであったが、それ以外で災害時には、積極的に防災リーダーとしての役割を果たしてくれる、そんな期待が持てた内容であった。

【課題】避難訓練時に学校の改修工事があり、避難経路が変わることがあった。今後もあらゆる想定をしながら進めていかないといけないと感じた。そしてコミュニティの観点から、地域の高校として、災害時にどのような役割や活動ができるのか、可能な限り実現できるよう計画・行動していくことが必要である。自治会や保育園、小中学校と連携して減災を目指し、災害時に避難所運営や防災リーダーとして高校生が積極的に活動し、地域に貢献できるようにしていくことが今後の重要な課題である。